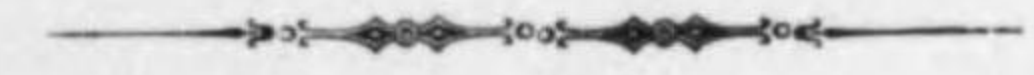


定B
185

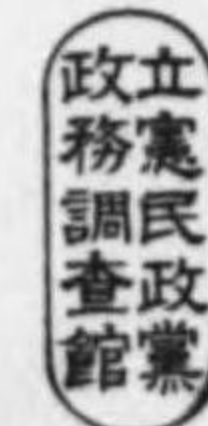
昭和五年

米統計表



農林大臣官房統計課

昭和六年三月刊行



10. 6. 22



始

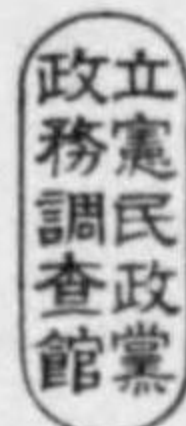


定B
185

定B
185

昭和五年

米統計表



農林大臣官房統計課

昭和六年三月刊行

83
13121



80W47146

緒 言

本書ハ昭和五年中ニ於ケル帝國內地ノ米ニ關スル統計ヲ速報スルト共ニ米ノ作付面積、産額、一段歩收穫高、豫想高ト實收高トノ關係、輸移出入額等ニ關スル累年ノ事實ヲ比較シ其ノ増減消長ノ跡ヲ明カナラシメタルモノナリ。

本書ハ我國從來ノ尺貫法單位ト共ニメートル法單位ヲ併記シタリ。右ハ近クメートル法單位ニ改ムルノ前提トシテ統計關係者及一般利用者ヲシテメートル法單位ニ馴致セシメンガ爲ニ外ナラズ。而シテ米ノメートル法單位ハキログラムヲ用フルモノトヘクトリツトルヲ用フルモノトアルモ本書ニ於テハ取敢ヘズヘクトリツトルヲ以テ表示シ置クコトトセリ。

昭和六年三月

農林大臣官房統計課長 鈴木覺四郎 識

凡 例

- 一、本書ハ大正十四年農林省令第二十五號農林省統計報告規則ニ基キ道府縣ヨリ提出セル報告書ニ依リ之ヲ編整ス但シ第十一表乃至第十三表ハ大藏省、朝鮮及臺灣總督府並樺太廳ノ各調査資料ニ依ル
- 二、本書ハ昭和五年ノ數字並第一次農商務統計表以降掲記セル累年ノ數字ヲ輯録ス
- 三、本書各表中事實ナキモノニ付テハ「-」ヲ、事實不詳ナルモノ又ハ調査ヲ缺クモノニ付テハ「…」ヲ、數ガ單位ニ滿タザルモノニ付テハ「0」ヲ附ス
- 四、本書ノ數字ニシテ曩ニ公表シタル統計表ト異ルモノアルハ誤謬訂正ヲナシタルニ由ル

目次

圖表

米收穫高及作付面積

米豫想收穫高と實收高との比較

概要

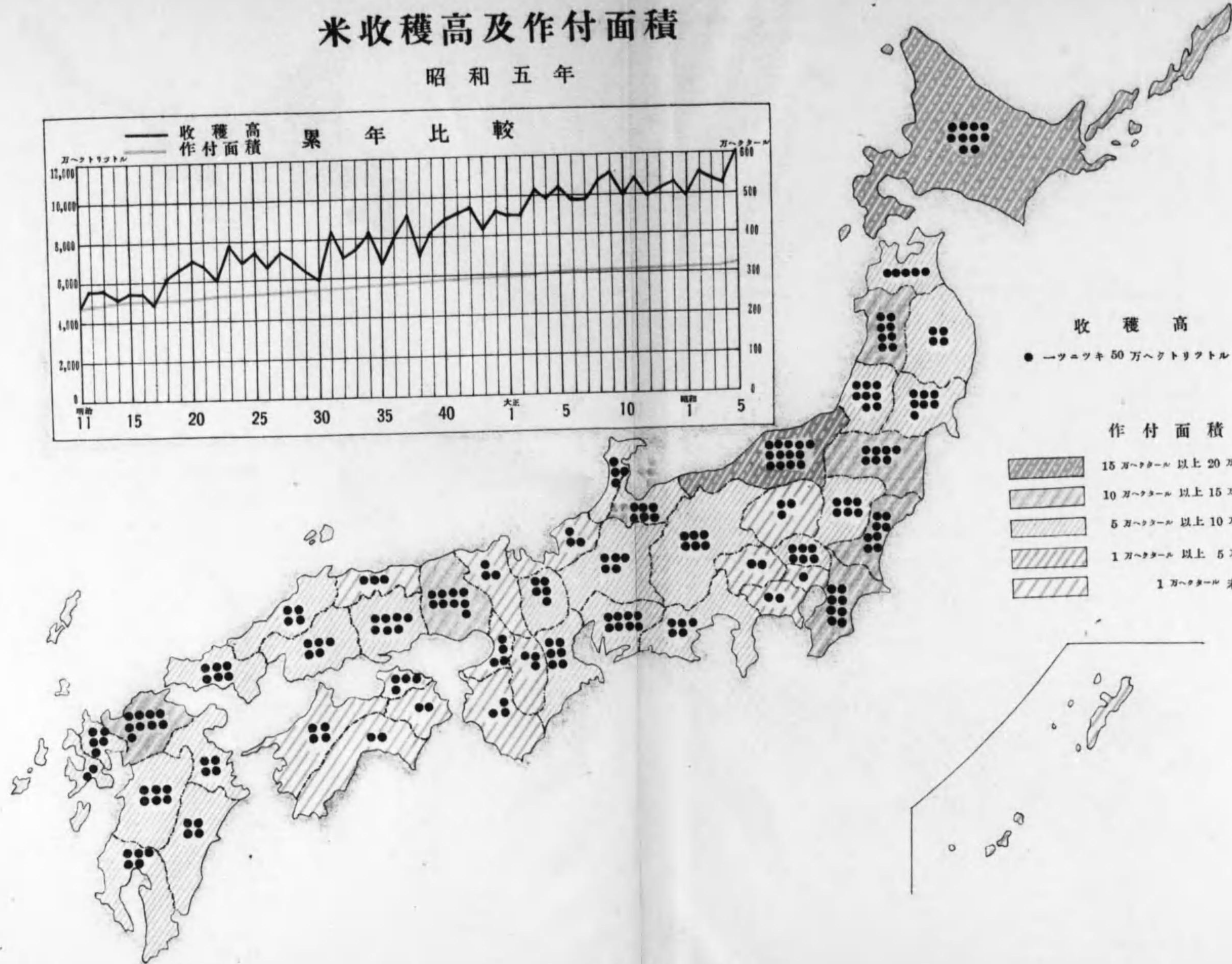
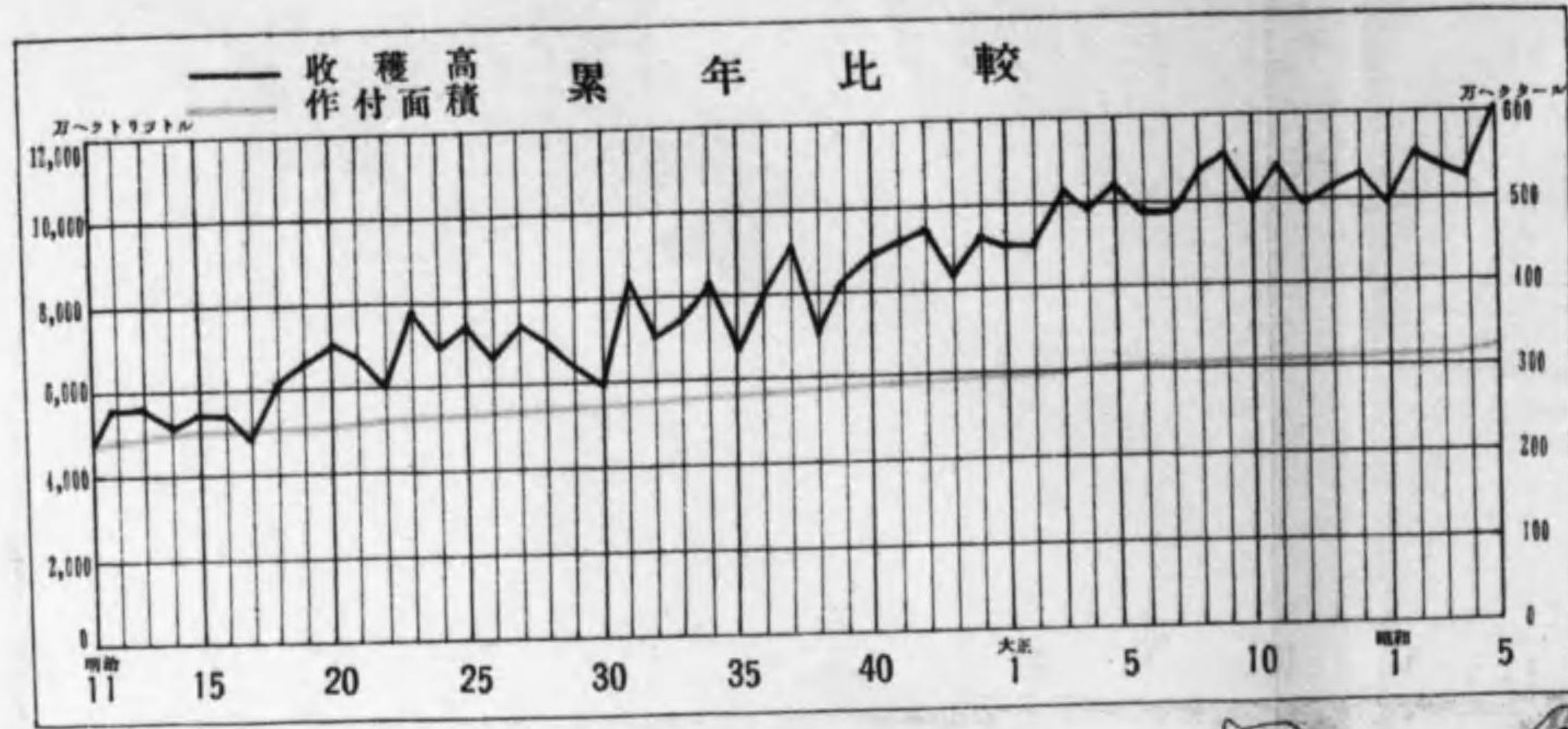
1. 米作付面積.....	I
2. 米産額.....	II
3. 米單位面積收穫高.....	IV
4. 米豫想收穫高と實收高との比較.....	V
5. 米輸移出入額.....	VI

統計表

1. 昭和五年米作付面積地方別.....	2
2. 米作付面積累年比較.....	4
3. 昭和五年米産額地方別.....	6
4. 米産額累年比較.....	10
5. 昭和五年米單位面積收穫高地方別.....	12
6. 米單位面積收穫高累年比較.....	14
7. 最近五箇年米單位面積收穫高地方別.....	16
8. 昭和五年米第一回豫想收穫高地方別.....	18
9. 昭和五年米第二回豫想收穫高地方別.....	20
10. 米豫想收穫高と實收高との比較.....	22
11. 米輸移出額.....	24
12. 米輸移入額.....	30
13. 米輸移出入額比較.....	36

米收穫高及作付面積

昭和五年



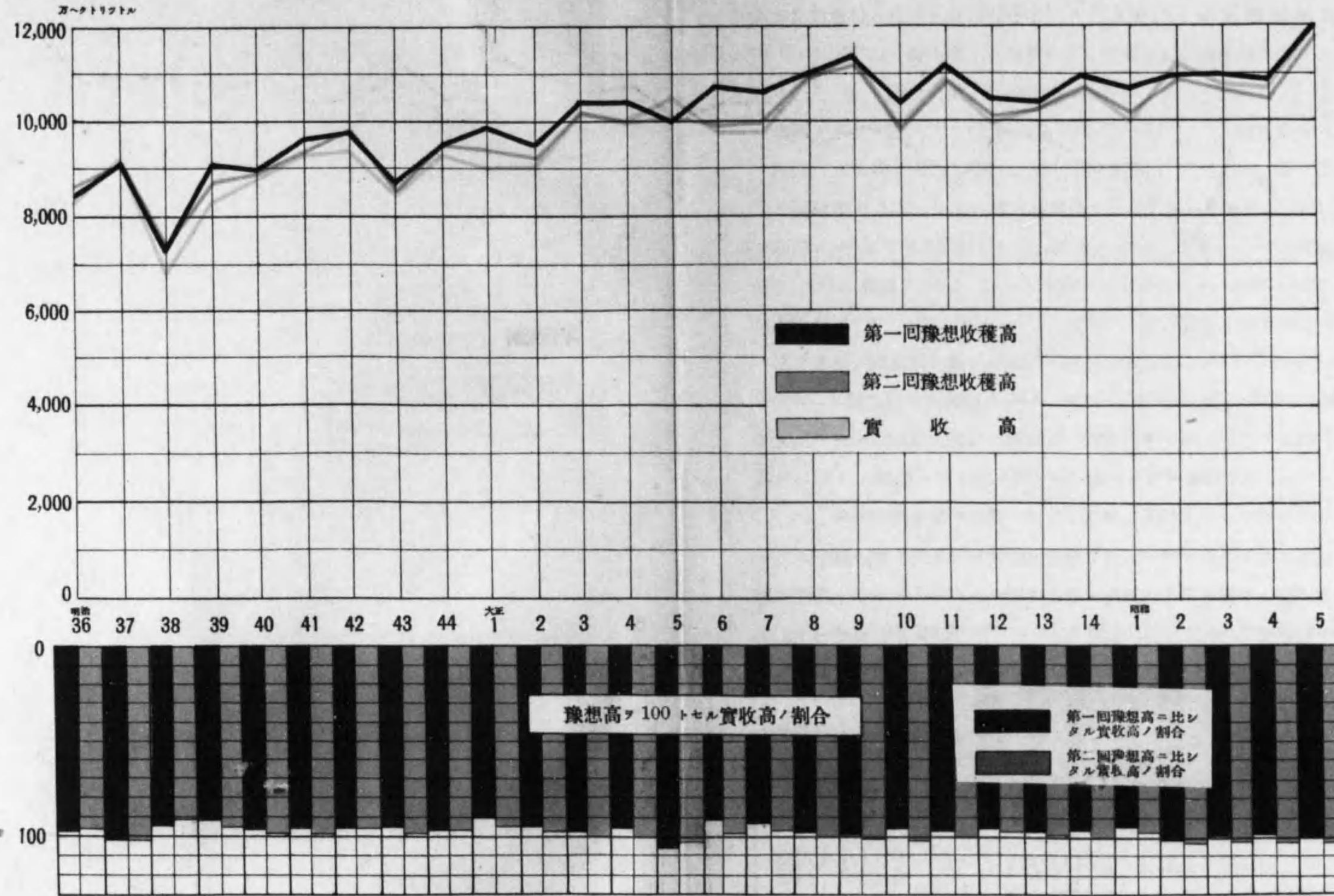
收穫高

● 一ツエツキ 50 万ヘクタール

作付面積

- 15 万ヘクタール 以上 20 万ヘクタール 未満
- 10 万ヘクタール 以上 15 万ヘクタール 未満
- 5 万ヘクタール 以上 10 万ヘクタール 未満
- 1 万ヘクタール 以上 5 万ヘクタール 未満
- 1 万ヘクタール 未満

米豫想收穫高ト實收高トノ比較



概 要

1. 米作付面積

(イ) 昭和五年米作付面積 昭和五年ニ於ケル米作付面積ハ 3,212,466.45ヘクタールニシテ之ヲ前年作付面積ニ比スレバ 28,396.27ヘクタール(九厘)ヲ、前五箇年平均作付面積ニ比スレバ 61,101.31ヘクタール(一分九厘)ヲ増加セリ。之ヲ水稻、陸稻別トナストキハ次ノ如シ。

總 數	(割合)	粳 米	(割合)	糯 米	(割合)
水稻	3,079,043.70ヘクタール(九割六分)	2,814,736.76ヘクタール(九割八分)	264,306.94ヘクタール(七割八分)		
陸稻	133,422.75ヘクタール(四分)	59,903.31ヘクタール(二分)	73,519.44ヘクタール(二割二分)		

又全國總數ヲ 1,000 トセル地方別割合トナストキハ北海道ノ 58.2 (186,868.86ヘクタール)最モ多ク新潟ノ 55.5 (178,207.14ヘクタール)、茨城ノ 39.5、千葉ノ 35.2、福岡ノ 34.4、秋田ノ 33.8、兵庫ノ 32.3、福島ノ 31.3、之ニ次ギ何レモ十萬ヘクタール以上ヲ算シ最モ少キハ沖縄ノ 1.9 (6,195.47ヘクタール)ニシテ東京ノ 4.8、山梨ノ 5.6、徳島ノ 8.7 等之ニ次グ。

之ヲ水稻、陸稻別ニ觀レバ水稻ニ於テハ北海道ノ 60.7 (186,852.70ヘクタール)首位ヲ占メ新潟ノ 57.7 ヲ第二位トシ福岡ノ 35.8、秋田ノ 35.1、千葉ノ 34.0、兵庫ノ 33.7、福島ノ 32.4 等順次之ニ次グ。陸稻ニ於テハ茨城ノ 252.3 (9,694.12ヘクタール)一頭地ヲ拔キ栃木ノ 150.0、鹿兒島ノ 134.4 ノ順位ニシテ他ハ何レモ一萬ヘクタール以下ナリ。

(ロ) 米作付面積累年比較 明治十二年(明治十一年ハ陸稻不詳)ヨリ昭和五年ニ至ル五十二箇年間ニ於ケル米作付面積ノ趨勢ヲ觀ルニ年ニ依リ多少ノ例外アルモ年々規則正シク漸増シ明治十五年ヲ 100 トセル昭和五年ノ指數ハ 125ニ當ル。而シテ増加ノ最モ多カリシハ明治二十一年ノ 48,398.68ヘクタールニシテ明治二十二年ノ 40,216.86ヘクタール、同二十三年ノ 34,325.95ヘクタール、同三十一年ノ 30,190.41ヘクタール、大正元年ノ 29,226.45ヘクタール之ニ次グ。

今明治十二年(明治十一年ハ陸稻不詳)ニ於ケル作付面積 2,514,543.77ヘクタールニ對スル毎十箇年間ニ於ケル増加ノ割合及同期間一箇年平均増加ノ割合ヲ示セバ次ノ如シ。

	毎十箇年増加ノ割合	一箇年平均増加ノ割合
自明治十三年至同二十二年	189,461.75ヘクタール(八 分)	18,946.18ヘクタール
自同二十三年至同三十二年	112,077.32ヘクタール(四 分)	11,207.73ヘクタール
自同三十三年至同四十二年	97,709.36ヘクタール(四 分)	9,770.94ヘクタール

	毎十箇年増加ノ割合	一箇年平均増加ノ割合
自明治四十三年至大正八年	165,183.87 ^{ヘクタール} (七分)	16,518.39 ^{ヘクタール}
自同九年至昭和四年	104,956.76 ^{ヘクタール} (四分)	10,495.68 ^{ヘクタール}
昭和五年	—	28,396.06 ^{ヘクタール}
計	669,389.06 ^{ヘクタール} (二割七分)	18,693.17 ^{ヘクタール}

即チ昭和五年ノ増加ノ割合最も多ク明治十三年ヨリ同二十二年ニ至ル増加ノ割合之ニ次ギ明治三十三年ヨリ同四十二年ニ至ル増加ノ割合最も低シ。之ヲ水稻、陸稻別ニ觀レバ水稻ハ昭和五年ニ於ケル 3,079,043.70^{ヘクタール} ヲ明治十二年ノ 2,508,969.62^{ヘクタール} ニ比スレバ 570,074.08^{ヘクタール} (二割三分)ノ増加ニシテ一箇年平均増加ノ割合ハ 11,177.92^{ヘクタール} (四厘)ニ當リ、陸稻ハ昭和五年ノ 133,422.75^{ヘクタール} ヲ明治十二年(明治十一年ハ不詳)ノ 5,574.15^{ヘクタール} ニ比スレバ 127,848.60^{ヘクタール} (二百二十九割)ノ増加ニ當リ一箇年平均増加ノ割合ハ 2,506.84^{ヘクタール} (五割)ナリ。

2. 米産額

(イ) 昭和五年米收穫高 昭和五年ニ於ケル米收穫高ハ 120,633,003^{ヘクトリットル} ニシテ之ヲ前年ニ比スレバ 13,196,472^{ヘクトリットル} (一割二分三厘)ヲ、前五箇年平均收穫高ニ比スレバ 13,386,979^{ヘクトリットル} (一割二分五厘)ヲ増加セリ。

蓋シ本年ノ稻作ハ苗代時期ニ於ケル天候概シテ順調ナリシヲ以テ苗ノ生育良好ナリシガ移植時期後七月上旬ニ互リ曇雨天多ク日照時少ナカリシ爲發育ヲ阻害セラレタルモ其ノ後ノ天候一般ニ適順ナリシヲ以テ稻ノ生育促進セラレ地方ニ依リテハ七月下旬及八月上旬ニ於ケル暴風雨ノ被害ヲ蒙リタルモノ及病害蟲等ノ發生ヲ見タルモノアリシモ其ノ被害輕微ニ止マリタリ。而シテ八月十五日現在ニ於ケル水稻作況ハ

良 (普通作況ニ比シ增收五分ヲ超ユル見込ノモノ) 二十道府縣

北海道、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、山梨、静岡、三重、京都、大阪、奈良、和歌山、岡山、香川、佐賀、熊本、大分、宮崎

稍良 (普通作況ニ比シ增收五分以内ノ見込ノモノ) 二十四府縣

青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、東京、新潟、富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、滋賀、兵庫、鳥取、島根、廣島、山口、徳島、愛媛、福岡、長崎

普通 (普通作況ノ見込ノモノ) 二縣

高知、鹿兒島

稍不良 (普通作況ニ比シ減收五分以内ノ見込ノモノ) 一縣

沖縄

不良 (普通作況ニ比シ減收五分ヲ超ユル見込ノモノ) ナシ

ニシテ全國的ニ之ヲ觀レバ「稍良」ノ狀況ニ在リシガ其ノ後ノ天候ハ極メテ良好ニシテ二百十日及二百二十日前後モ平穩ニ經過シ一般ニ出穂、結實佳良ナルヲ得タルヲ以テ九月二十日現在ニ於ケル第一回豫想ニ於テハ 120,622,795^{ヘクトリットル}ト豫想セラレタリ。而シテ其ノ後ニ於テハ天候ノ低温不順ノ爲登熟幾分阻害セラレタルモノ及螟蟲等ノ被害並九月下旬、十月上旬ニ於ケル降雹及暴風雨ノ被害ヲ受ケタルモノアリシヲ以テ十月末日現在ニ於ケル第二回豫想ニ於テハ第一回豫想ニ比シ 2,817,883^{ヘクトリットル} (二分三厘)ノ減少ヲ示セリ。然レドモ其ノ後ノ天候ハ概シテ適順ニシテ第二回豫想當時懸念セラレタル病蟲害及暴風雨等ノ被害モ案外輕微ナリシニ因リ實收高ニ於テハ第二回豫想ニ比シ 2,828,091^{ヘクトリットル} (二分四厘)ノ増加ヲ示セリ。

(ロ) 昭和五年米産額種類別及地方別 昭和五年ニ於ケル米産額ヲ水稻、陸稻ニ別テバ次ノ如シ。

	總數 (割合)	粳米 (割合)	糯米 (割合)
水稻	産額 117,725,621 ^{ヘクトリットル} (九割八分)	108,302,573 ^{ヘクトリットル} (九割九分)	9,423,048 ^{ヘクトリットル} (八割六分)
	價額 1,094,445,590 ^圓	1,003,312,898 ^圓	91,132,692 ^圓
陸稻	産額 2,907,382 ^{ヘクトリットル} (二分)	1,327,885 ^{ヘクトリットル} (一分)	1,579,497 ^{ヘクトリットル} (一割四分)
	價額 23,470,590 ^圓	10,608,320 ^圓	12,862,270 ^圓

又全國總數ヲ 1,000 トセル地方別割合トナストキハ新潟ノ 54.9 (6,620,325^{ヘクトリットル}) 最も多ク北海道ノ 43.1 (5,196,238^{ヘクトリットル}) 之ニ次ギ兵庫ノ 37.3、福岡ノ 36.9、茨城ノ 35.1、千葉ノ 35.0、愛知ノ 34.8、秋田ノ 34.6 順次之ニ次ギ何レモ四百萬ヘクトリットル以上ヲ算シ最も少キハ沖縄ノ 0.8 (95,405^{ヘクトリットル}) ニシテ東京ノ 4.4、山梨ノ 7.0、徳島ノ 8.4、長崎ノ 8.6 等之ニ次グ。

之ヲ水稻、陸稻別ニ觀レバ水稻ハ新潟ノ 56.1 (6,609,185^{ヘクトリットル}) 最も多ク北海道ノ 44.1、兵庫ノ 38.2、福岡ノ 37.7、愛知ノ 35.6、秋田ノ 35.3、千葉ノ 34.3 順次之ニ次ギ何レモ四百萬ヘクトリットル以上ナリ。陸稻ハ茨城ノ 249.6 (725,667^{ヘクトリットル}) 首位ヲ占メ栃木ノ 147.5 (428,926^{ヘクトリットル})、鹿兒島ノ 120.7 (350,896^{ヘクトリットル}) 之ニ次ギ遙ニ下テ埼玉ノ 79.4、千葉ノ 63.6 等之ニ次グ。

(ハ) 米産額累年比較 明治六年ヨリ昭和五年ニ至ル米産額累年ノ趨勢ヲ觀ルニ年ニ依リ増減一樣ナラザルモ大體ニ於テ増加ノ傾向ヲ呈シ産業ニ關スル調査ガ農商務省ニ移管セラレタル翌明治十五年ヲ 100 トセル昭和五年ノ指數ハ 218 ニシテ十一割八分ノ増加ニ當ル。

而シテ増加ノ傾向最モ著シキハ明治三十八年以降ニシテ大正九年ノ 114,023,317ヘクタールヲ最高トシ爾後稍減少ノ傾向ナリシガ昭和五年ニ至リ 120,633,003ヘクタールヲ示シテ遂ニ大正九年ヲ超ヘ最高記録ヲ爲スニ至レリ。今茲ニ明治十三年以降ノ毎十箇年平均ヲ作製シテ比較スレバ次ノ如シ。

	總數 (指數)	水稻 (指數)	陸稻 (指數)
自明治十三年至同二十二年	60,011,916ヘクタール(100)	59,698,103ヘクタール(100)	313,813ヘクタール(100)
自同二十三年至同三十二年	71,813,841ヘクタール(120)	71,108,054ヘクタール(119)	705,787ヘクタール(225)
自同三十三年至同四十二年	83,180,913ヘクタール(139)	81,903,863ヘクタール(137)	1,277,050ヘクタール(407)
自同四十三年至大正八年	97,464,686ヘクタール(162)	95,304,933ヘクタール(160)	2,159,753ヘクタール(688)
自同九年至昭和四年	106,242,496ヘクタール(177)	103,749,333ヘクタール(174)	2,493,163ヘクタール(794)
昭和五年	120,633,003ヘクタール(210)	117,725,621ヘクタール(197)	2,907,382ヘクタール(926)

右ハ一面作付面積ノ増加ニ依リテ増加セルモノナリト雖モ他面近年ニ於ケル施肥管理ノ改善、品種ノ改良、其ノ他技術ノ進歩ニ負フ所亦少カラザル可シ。即チ明治十三年以降昭和五年ニ至ル作付面積ノ増加ハ二割七分ニ過ギサルモ産額ハ同期間内十一割ノ増加ヲ示シ明治十三年ヨリ同二十二年ニ至ル十箇年平均産額 60,011,916ヘクタールニ對シ大正九年ヨリ昭和四年ニ至ル十箇年平均産額ハ 106,242,496ヘクタールニシテ 46,230,580ヘクタール (七割七分)ノ増加ニ當ル。

3. 米單位面積收穫高

(イ) 昭和五年米單位面積收穫高 昭和五年ニ於ケル米單位面積收穫高ハ一アールニ付全國平均 0.3755ヘクタールニシテ之ヲ水稻、陸稻別ニ觀レバ

	粳米	糯米	平均
水 稻	0.3848ヘクタール	0.3565ヘクタール	0.3823ヘクタール
陸 稻	0.2217ヘクタール	0.2148ヘクタール	0.2179ヘクタール

ナリ。而シテ全國平均 100ニ對スル地方別ノ割合ヲ觀ルニ水稻ハ大阪ノ 129 (0.4948ヘクタール) 最モ多ク奈良ノ 129 (0.4923ヘクタール)、山梨及香川ノ各 122、静岡及愛知ノ各 115、兵庫及群馬ノ各 113 順次之ニ次ギ最モ少キハ沖繩ノ 40 (0.1544ヘクタール) ナリ。陸稻ハ山梨ノ 131 (0.2860ヘクタール) 最モ多ク愛知ノ 130、東京ノ 122、長野ノ 118、埼玉及岐阜ノ各 117 之ニ次ギ、最モ少キハ沖繩ノ 34 (0.0739ヘクタール) ニシテ徳島ノ 59、滋賀ノ 60 等之ニ次グ。

(ロ) 米單位面積收穫高累年比較 明治十二年 (明治十一年ハ陸稻不詳) ヨリ昭和五年ニ

至ル五十二箇年間ニ於ケル米單位面積收穫高ノ趨勢ヲ觀ルニ殆ンド米産額ト同一ノ步調ヲ辿リ年ニ依リ増減一樣ナラザルモ施肥ノ増加、品種ノ改良、其ノ他技術ノ進歩ニ伴ヒ大體ニ於テ増加ノ傾向ヲ示シ明治十二年ヨリ同十六年ニ至ル五箇年平均 0.2185ヘクタールト昭和元年ヨリ同五年ニ至ル五箇年平均 0.3465ヘクタールトヲ比較スレバ 0.1280ヘクタール (五割九分)ノ増加ニ當ル。尙明治十三年以降ノ毎十箇年平均單位面積收穫高ヲ比較スレバ次ノ如シ。

	水稻	陸稻	平均 (指數)
自明治十三年至同二十二年	0.2319ヘクタール	0.1164ヘクタール	0.2307ヘクタール (100)
自同二十三年至同三十二年	0.2629ヘクタール	0.1336ヘクタール	0.2605ヘクタール (113)
自同三十三年至同四十二年	0.2947ヘクタール	0.1593ヘクタール	0.2908ヘクタール (126)
自同四十三年至大正八年	0.3289ヘクタール	0.1816ヘクタール	0.3231ヘクタール (140)
自同九年至昭和四年	0.3465ヘクタール	0.1810ヘクタール	0.3392ヘクタール (147)
昭和五年	0.3823ヘクタール	0.2179ヘクタール	0.3755ヘクタール (163)

(ハ) 最近五箇年米單位面積收穫高地方別 昭和元年ヨリ昭和五年ニ至ル五箇年間單位面積收穫高ノ總平均ハ一アールニ付 0.3465ヘクタールニシテ之ヲ各年別ニ觀レバ昭和五年ノ 0.3755ヘクタール最モ多ク昭和二年ノ 0.3560ヘクタール、昭和三年ノ 0.3436ヘクタール、昭和四年ノ 0.3374ヘクタール、昭和元年ノ 0.3201ヘクタールノ順位ナリ。更ニ五箇年平均ヲ地方別ニ觀レバ最モ多キハ大阪ノ 0.4531ヘクタールニシテ奈良、滋賀、香川、山梨、佐賀順次之ニ次ギ何レモ 0.4100ヘクタール以上ヲ算シ最モ少キハ沖繩ノ 0.1557ヘクタールナリ。

4. 米豫想收穫高ト實收高トノ比較 明治三十六年ヨリ昭和五年ニ至ル二十八箇年間ニ於ケル米豫想收穫高ト實收高トノ關係ヲ見ルニ第一回豫想收穫高ニ比シ實收高ノ減少セル年二十四箇年、増加セル年四箇年ニシテ減少ノ數量ノ最大ナルハ大正元年ノ 9,148,605ヘクタールニシテ大正六年ノ 8,674,504ヘクタール、大正七年ノ 7,725,756ヘクタール、明治三十九年ノ 7,643,886ヘクタール之ニ次ギ最少ナルハ大正八年ノ 298,936ヘクタールニシテ大正九年ノ 522,690ヘクタール之ニ次ギ其ノ割合ヨリ觀ルトキハ最大九分二厘、最少三厘、平均三分一厘ナリ。

又第二回豫想收穫高ト實收高トノ關係ヲ觀ルニ二十八箇年中第二回豫想收穫高ヨリモ實收高ノ減少セル年十五箇年、増加セル年十三箇年ニシテ其ノ差ノ最モ大ナルハ明治三十八年ノ 5,415,018ヘクタールトシ其ノ差ノ最モ少ナルハ大正十一年ノ 197,966ヘクタールニシテ其ノ割合ヲ觀ルトキハ最大七分三厘、最少二厘、平均七厘ナリ。蓋シ第一回豫想ノ時期ハ九月二十日現

在ニシテ厄日ヲ經過セル後ナリト雖モ天候其ノ他ノ事情ニ於テ豫測ス可カラザルモノアルニ依リ實收高ハ多クハ減少スルヲ常トスルモ第二回豫想ノ時期ハ十月末日現在ニシテ收穫期ニ近接セルヲ以テ時ニ増減アルモ其ノ差頗ル僅少ナルヲ常トス。

5. 米輸移出入額 昭和四年ニ於ケル米輸移出額（輸出額ニハ再輸出額ヲ、移出額ニハ再移出額及外國米移出額ヲ含ム）ハ 899,278^{ヘクトリツト}、價額 15,672,905^{ニシテ}之ヲ輸出額ト移出額トニ別テバ

輸出額 58,706^{ヘクトリツト}（六分）内輸出額 58,695^{ヘクトリツト} 再輸出額 11^{ヘクトリツト}

移出額 840,572^{ヘクトリツト}（九割四分）内移出額 772,828^{ヘクトリツト} 再移出額 67,744^{ヘクトリツト}

ナリ。移出額ヲ仕向地別ニ觀レバ

朝鮮へ 167,536^{ヘクトリツト} 臺灣へ 18,683^{ヘクトリツト} 樺太へ 654,353^{ヘクトリツト}ナリ。

又輸移入額（輸入額ニハ再輸入額ヲ、移入額ニハ再移入額及外國米移入額ヲ含ム）ハ 16,447,162^{ヘクトリツト}、價額 220,651,760^{ニシテ}之ヲ輸入額ト移入額トニ別テバ

輸入額 2,285,142^{ヘクトリツト}（一割四分）内輸入額 2,285,142^{ヘクトリツト} 再輸入額 0^{ヘクトリツト}

移入額 14,162,020^{ヘクトリツト}（八割六分）内移入額 14,110,035^{ヘクトリツト} 再移入額 51,935^{ヘクトリツト}ナリ。

移入額ヲ仕向地別ニ觀レバ

朝鮮ヨリ 9,977,308^{ヘクトリツト} 臺灣ヨリ 4,184,712^{ヘクトリツト}ナリ。

而シテ輸移出額ト輸移入額トヲ比較スレバ輸移入超過 15,547,884^{ヘクトリツト}ニシテ尙明治六年ヨリ昭和四年ニ至ル五十七箇年間ニ於ケル輸移出入額ノ累年比較ヲ觀レバ明治二十九年迄ハ三四箇年ヲ除キ輸移出超過ヲ繼續セシモ爾後轉ジテ輸移入超過ヲ繼續シ近年ニ至リ輸移入増加ノ傾向著シク昭和四年ハ稍減少シタルモ尙前記ノ如キ超過ヲ示セリ。

統計表

2. 米作付面積

Table showing rice planting area data (米作付面積) with columns for year (年次), total area (總數), and detailed area by region (水, 總數, 種). Rows span from Meiji 11 to Shōwa 5.

1. 米ノ調査ハ明治十四年農商務省ニ移管セラレタルヲ以テ其ノ翌年即明治十五年ヲ基準トセリ (以下同ジ)

累年比較

Table showing cumulative comparison of rice planting area (累年比較) with columns for rice (米), paddy (稲), and index (指數). Rows span from Meiji 11 to Shōwa 5.

8. 昭和五年米第一回

Table with columns for '地方' (Prefecture), '作付面積' (Cultivated Area), and '予想' (Forecast). It lists data for 47 prefectures, including total area, rice area, and other crops, with values in Hektar and metric tons.

1. 沖縄ノ分ハ第二期作ヲ包含セズ

豫想收穫高地方別 (九月二十日現在) (十月二日現在)

Table with columns for '收穫高' (Yield), '増減' (Increase/Decrease), and '地方' (Prefecture). It compares current yield with previous years and provides percentage changes for 47 prefectures.

昭和六年三月十三日印刷

昭和六年三月十五日發行

農林大臣官房統計課

印刷者 竹田益平

東京府南葛飾郡南綾瀬町小菅一二八四番地

印刷所 小菅刑務所

東京府南葛飾郡南綾瀬町小菅一二八四番地

83-131



1200600290737

83

131

終